

奥武蔵



日和田山・物見山



2003年7月13日(日)「日和田山・物見山ハイキング」に出かけました。場所は、奥武蔵。八王子駅からJR八高線で東飯能駅、ここで西武線に乗り換えて高麗(こま)駅が出発地点です。高麗駅前には「天下大將軍・地下女將軍」と書かれた一対の真っ赤なトーテンポールが立っていてちょっと驚かされます。そして、周辺案内図にはハングル文字が...? 実は、高麗の地は奈良時代の初期に朝鮮半島での戦乱から日本に逃れて来た高句麗の人々 1799 人をここに集め高麗群を置いた歴史が今も続いているのです。

心配していた天気になくなくずれはなく、予定通り日和田山を目指します。日和田山山頂からは、巾着田がきれいに見ることができます。巾着田は高麗川が大きく湾曲して巾着の形に似ていることからつけられた名称で、高句麗からの渡来人がこの地形を利用して稲作を伝えたそうです。今は“曼珠沙華(彼岸花)”の群生地として有名です。

高指山、物見山と歩き、「ユガテ」という場所に着きます。ここは、小さな小さな盆地で民家が2軒、その前には適度な広さの畑があり、とてもものどかなところ。なんでカタカナなのだろう? と思っていたと“ここは「湯ヶ天」と書かれた看板がありました。これで納得していいのか? さらにナゾは深まったような...

ちょっとエキゾチックな奥武蔵のハイキングです。



あれが巾着田

標識に従って、踏切を渡り高麗川を鹿台橋で越えたらすぐに左折します。坂道を登りしばらくすると左方向に日和田山への登山道があります。直進すると、若光のお墓のある聖天院を経て高麗神社、そして、八高線の高麗川駅へ通じています。雨だったらこの道を散策していたことでしょう。



日和田山への登山道の登り口あたりは、石畳のように手頃な大きさの石が敷き詰められていて、雨上がりでも滑りにくくなっていました。金刀比羅神社の入口を示す鳥居をくぐり、檜林の中を登って行くと、男坂・女坂の分岐があります。“見晴らしの丘”という言葉に惹かれ、男坂方面に進みます。檜林が低木の雑木林に変わると右側に“見晴らしの丘”がありました。曇っているので近くの街は見下ろすことができますが、遠くは霞んでいます。そこから、5分ほどで、さらに素晴らしい眺めの金刀比羅神社に着きました。そこは岩場になっていて、ここが山頂では...、と思うような景色です。巾着田が巾着の形に目で確認できます。昔、高句麗の人々がこの地に稲作を伝えた場所です。今は水田はありませんが、春にはれんげ草と菜の花、秋は彼岸花と秋桜が一面を覆い、多くの観光客を集めています。9月にここから見下ろしたら真っ赤な巾着なのかな？

自転車が走る山

金刀比羅神社の裏を抜けてすぐに日和田山山頂があります。時刻は11時、お弁当には少し早すぎます。少し休んで日和田山を下ります。木の根と岩の斜面を下ると、整備された歩きやすい檜林の中の山道がしばらく続きます。やがて、雑木林に変わった頃に上りが始まり、陽当たりのよい低木地帯を抜けると車道に出ました。下からマウンテンバイクの集団がやって来て、私たちが歩いてきた日和田山方面への山道に侵入していきました。車道を右へ行くと高指山山頂ですが、そこにはNTTの電波の中継のための建物があるだけ。左へ車道を下ります。5分ほどで右斜めに物見山への登山道が始まります。やはり整備された歩きやすい登山道で、周りは檜林です。ここでも自転車とすれ違いました。今度は、ごく普通のおじさんが、ごく普通の自転車に乗って散歩でもするように通り越しました。なんだか不思議な光景、不思議な山。





今の流行りは“にがり”

なだらかに登り続けて15分で物見山山頂に到着します。ちょうど正午。山頂は、30名近くの団体が昼食を摂っていてかなりにぎやかです。これまで、あまりハイカーに会わなかったのですが、私たちもここでお弁当とします。食事中的話題は、小野さんの健康管理術？今、“にがり”を飲んでいるとのこと。“にがり”とは豆腐作りに使うあの“にがり”。1リットルの水に“にがり”をスプーン2杯入れて水の代わりに飲むだけで、特に味も変わらないそうです。いったいどこでいろいろな情報を仕入れて来るのでしょうか？小野さんに聞くと、健康のための雑誌「壮快」などをたまに買って読んでいて、コレはと感じたものを試しているとのことでした。



北向地蔵に愛を感じて？

しばらくすると、先に食事をしていた団体が“北向地蔵”へ向かって出発しました。12時35分、記念撮影をして私たちも“北向地蔵”に向かいます。山頂を一気に下ると再び歩きやすく整備された尾根道が続きます。ただし、所々に現れる分岐の標識が少しわかりにくいかな…。自分たちが向かうルートを手前まで把握していないと違うコースへ行ってしまうそうです。もちろん、違うルートへ進んでも安全に下山できるので、いつかの「沼津アルプス」のように心身ともに疲れてしまうかもしれません。私たちが向かっているのは、“北向地蔵”“ユガテ”“東吾野駅”なのです。ちょっと違うコースに迷い込みそうになりましたが、13時15分、無事“北向地蔵”に着きます。こ



のお地蔵様は、屋根のある立派な祠に納まっていて、きれいに大事にされているのがよくわかります。もともと天明6年(1786年)に流行した悪疫を防ぐために置かれたそうですが、今は、男女の逢瀬をとりもつ縁起地蔵として親しまれているそうです。

ユガテ＝湯ヶ天

“北向地蔵”の裏の車道を渡り、右方向、左斜めにする登山道を進みます。杉林と雑木林の中を適度にアップダウンを繰り返しながら徐々に下り、小さな沢を越えて、再び上りが始まり、竹林を通過すると、広々とした平らな場所に出ます。民家が2軒あり、自給自足できそうな程度の広さの畑に作物が植えられていました。ここが“ユガテ”です。漢字で書くと“湯ヶ天”となるようです。ここには、昔、お湯が天に届くほど湧いていたから、とか、そのお湯があるとき天に昇ってしまいお湯が出なくなったから“湯ヶ天”という地名がついたという説があります。山の中の理想郷だったのでしょね。今もそれは感じる事ができました。

“ユガテ”でおおらかな気分になり、10分ほど下ると車道に出ます。車道を30分歩くと西武線と平行して走る国道に出ました。かどに酒屋を発見！ここにも、今朝駅で渡された“尋ね人”が貼ってありました。雨が降らなかったことと、無事下山したことに缶ビールで乾杯！ここから東吾野駅へはゆっくり歩いて10分程度です。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

